

今年度も「自立活動だより」では、校内の自立活動の取組の様子や便利な情報など、自立活動に関わって、学習や生活の中で知っておくと良いことや意識したいことを発信していきます。

自立活動とは？

自立活動は将来的な自立を目指し、学習や生活で困ったことに対して主体的に改善・克服できるよう、必要な知識・技能・態度及び習慣を養うことを目的に行います。取り組んだことは、自立活動の授業だけではなく、各教科や生活の中で活かしながら力を伸ばしていきます。

自立活動の様子を本校のホームページに投稿しています。ぜひご覧ください。

自立活動



自立活動 日々の様子



★自立活動の6区分27項目については、右にあるQRコードよりアクセスできます。



ICT 活用 UD ブラウザのリフローモード

授業で視覚補助具の一つとして活用しているタブレット端末で、より見やすくするためのツールについて紹介します。

最近、UDブラウザを使って教科書を見る生徒が増えています。UDブラウザは教科書閲覧アプリとして知られていますが、今回はその中のリフローモードについて触れたいと思います。

リフローモードとは、教科書やPDFなどのデータをUDブラウザで読み込み、フォント、文字サイズ、文字間隔、行間隔、文字の色、背景の色、縦書き⇄横書きの変更が可能で、自分が読みやすい状態に変更することができる機能です。そして、読む上での利点は、画面の幅に合わせて自動で改行されるため、上下または左右1方向のスクロールで読めるところです。例えば、横書きの文章を右にスクロールしながら読み、次の行を読むために左に戻って下にスクロールして…と忙しく操作することなく読むことができます。

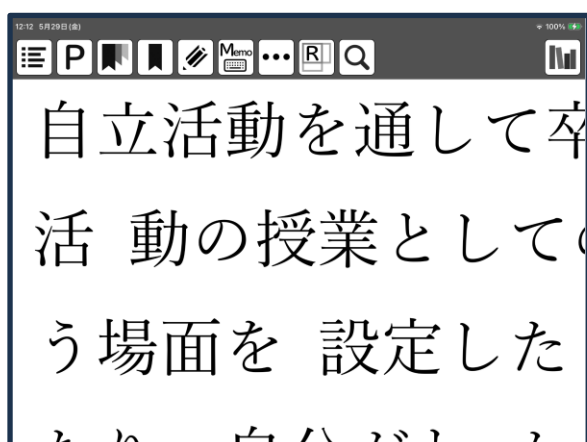
例えば、校内弁論大会の原稿を読む時に、スクロールが多すぎてどこを読んでいるのかわらなくなっていた生徒は、リフローモードにすることで読みやすくなりました。また、文頭に数字を打っておいて、自分がどこを覚えたか、どこが覚えられていないかを整理しながら練習することができました。読み上げ機能を使って、耳から覚えることも可能です。生徒は本番までに暗記して、原稿を読まずに自信を持って発表することができました。

自分にとって読みやすい、そして文章として捉えやすい文字について知っておくことは大切です。自立活動では、読速度を測定したり、自分に合ったリフローモードの設定を試したりして、読みやすい文字サイズの確認をしています。盲学校では、読みやすい文字サイズで資料を配付されることがほとんどですが、読みにくい小さな文字の資料が配付された場合の調整の仕方も学んでいます。自分で調整できる引き出しは多い方が良いでしょうし、調整できても、負担を減らすために、できるならば支援してもらいたいことを伝えられるようにしておくことも大切です。

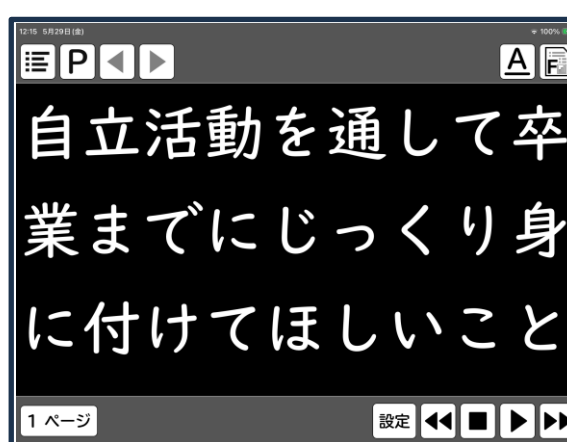
一方で、デジタル化が進み、何でもタブレット端末上ですませがちですが、紙をめくことで全体を把握しやすく、必要な情報にたどり着きやすいなど、身体性が有効な場合もあります。自分にとってどちらが有効かを知り、場面に応じて選択できる力も必要です。

授業を通して、対話しながら読みやすい文字を確認することで、自己理解し、発信力、交渉力をつけるセルフアドボカシーの育成にもつなげています。卒業後を見据え、盲学校に在る間に困る場面も経験し、調整する力をつけていきましょう。

【写真】文章が入りきらず、上下左右のスクロールが必要な、通常のPDF画面



【写真】リフローモードで文字サイズ等を設定し、自動改行された画面



【写真】文字サイズ等の設定画面



自分が読みやすい文字の設定を知り、
楽に読めるよう調整する力をつけよう！

